狛江市コミュニティ・スクール
イメージキャラクー
コミュにゃん

コミュニティ・スクール通信 NO.7

～ 四中ゾーンのあいさつ運動～

発行／令和４年 12 月　　発行者／学校教育課　　担当／地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（ＣＳ）の周知と推進を図るため、「コミュニティ・スクール通信」と題して、シリーズ（月１回発行）でお知らせします。

児童・生徒による小中連携

狛江市がコミュニティ・スクールを導入した大きな目的の一つとして、小中連携が挙げられます。各ゾーンは、それぞれ「義務教育を修了したときの子どもの姿」を考えながら、コミュニティ・スクールとしての教育活動を進めているところです。

四中ゾーンは、五小と四中が近いという立地から、以前より、道徳教育、プログラミング教育等、交流が盛んに行われていました。あいさつ運動もその一つです。初めは、五小のあいさつ運動に狛江市民生委員・児童委員協議会の方々が地域の人という形で参加、その後、5年ほど前から四中の生徒が五小に来てあいさつ運動に参加するようになりました。これまでは、教員がお膳立てをしていましたが、コミュニティ・スクール初年度は初めての動きがありました。四中生徒会が主体的に動き出したのです。

「あいさつ運動の取組み方」について、四中の生徒会が呼びかけ、五小児童会との意見交換が実現しました。

「あいさつは、コミュニケーションの　はじめの一歩」であるという認識をもち、積極的に自分から進んであいさつができるようになる工夫について話し合われました。そして、今回のあいさつの回数を上回るあいさつの回数に、今後つなげていくための目標づくりとして「あいさつ貯金」をすることに決まりました。

五小の６年生と四中の生徒会や有志の皆さんが、登校してくる児童を迎えます。中学生の手には、「あいさつ貯金」のためのカウンターがあり、あいさつを交わす回数を数えています。

民生委員・児童委員協議会の方々も毎回参加してくださっていて、あいさつ運動ののぼり旗も寄贈してくださいました。朝のあいさつから、普段の地域で出会ったときのあいさつに繋がります。三学期には、五小の児童が四中に出かけて、四中校門前であいさつ運動に参加する予定です。